

# 産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

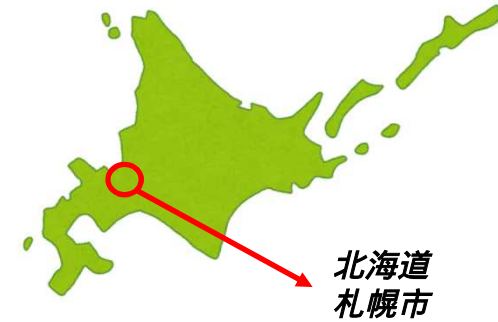
## 取組の概要

取組の概要 : 葉物野菜(養液栽培)の販売額増加の推進  
計画作成主体 : 札幌市農業再生協議会  
対象品目 : 葉物野菜(養液栽培)「ベビーリーフ、リーフレタス、サンチュ、サラダ菜、小ネギ、みつば、ほうれんそう、小松菜、水菜、ハーブ類」  
産地面積 : 3.334ha  
主な取組主体 : 株式会社アド・ワン・ファーム  
成果目標 : 販売額の10%以上の増加(単位面積)  
助成金の活用 : 整備事業、生産支援事業

## ポイント

集出荷貯蔵施設の利用再編を行うことで、規模拡大や高収益性の葉物野菜の拡大に対応した集出荷体制が整い、より高単価で販売可能な包装製品の出荷を行うことで販売額66.2%以上の増加を実現。

## 地区の概要



## 産地の現状と目標

現状:H27年度

作付面積:2.313ha(養液葉物 出荷数量:294t)  
1.021ha(露地野菜 出荷量:11t)  
販売額:215,064千円 6,450千円/10a

目標:H30年度

作付面積:3.334ha(出荷数量:349t)  
販売額:357,597千円 10,725千円/10a



葉物野菜(養液栽培)の作付面積を増やす



集出荷貯蔵施設の再編強化により包装製品の出荷を増やす

## 推進体制

地域の関係者(札幌市、農業関係者等)が一体となり、事業を推進。

## 地域における独自の取組

主な取組

養液栽培による精密施肥等の栽培管理を行い環境に配慮した高品質の栽培を目指す。栽培・集出荷手順書(マニュアル)の見直しを行い、作業の効率化と生産物の安全性の向上を図る。

養液栽培を行う事業者との情報交換を行うほか、地域農業者に養液栽培技術を紹介し、技術普及を推進する。

## 事業効果

集出荷貯蔵施設(包装・検品ライン導入含む)の再編整備により、葉物野菜の未包装出荷を包装製品の出荷に変更。ハウス資材(パイプハウス)の導入による作付け面積の拡大や自動換気、養液システム等のリース導入により露地栽培から高収益の葉物野菜(養液栽培)への転換を図ることで販売額の増加が図られる。

### 葉物野菜(養液栽培)の販売額

